



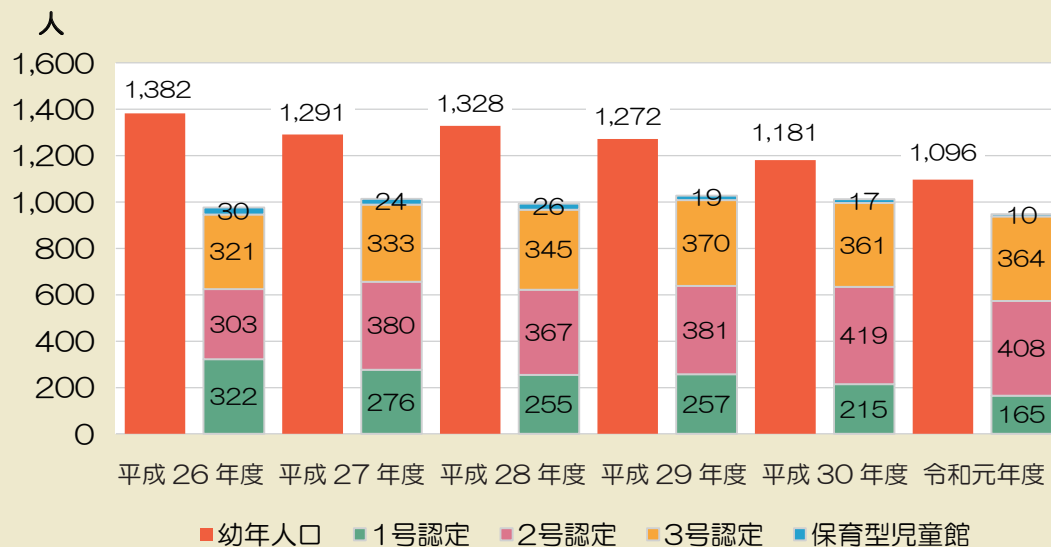
現状と課題

- ・少子化や核家族化、保護者の就労形態の多様化など子どもを取り巻く社会的環境の変化に伴い、幼児教育施設の役割は、さらに大きなものになっています。また、共働き家庭の増加に伴い、保育所の需要は増加する一方で、幼稚園では定員割れ等の課題が発生しています。
- ・小中学校においては、児童・生徒数の減少が急速に進んでいる状況にあり、これからも減少していくことが想定されています。
- ・少子高齢化や急速な技術革新、グローバル化の進展等、子ども達を取り巻く状況が変化しています。
- ・予測困難な時代を強く生き抜くために、小学校から中学校までのキャリア教育に関わる諸活動の記録を蓄積し、高等学校へつなげ、人間関係形成力や社会参画力、自己の在り方や生き方を考え、主体的に課題解決に取り組む態度を育む必要があります。
- ・各校において小中9年間を見据えた「いのちの教育」の充実及び改善を図りながら継続的に取り組んでいくとともに、津波だけではなく土砂災害等の自然災害への意識を高め、対策について、家庭・地域と協働して取り組む必要があります。

基本計画

統計データ

市内教育・保育施設利用児童数の推移



※ 1号認定（満3歳以上の未就学児（2号認定を除く））

2号認定（満3歳以上の保育が必要な子ども）

3号認定（満3歳未満の保育が必要な子ども）

保育型児童館（3・4・5歳児）

資料 / 釜石市

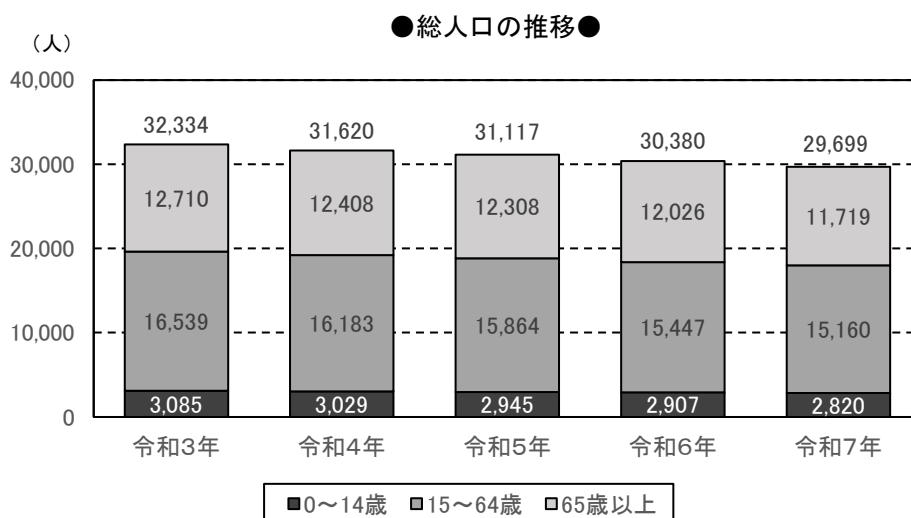
教育文化

(2) 人口推計

①総人口の推移

令和3年から令和7年までの総人口の推移を見ると、各年で減少し、令和7年は29,699人となっており計画期間中に2,635人減少すると予測されます。

年齢3区分別人口でも、年少人口、生産年齢人口、老年人口ともに減少をしており、計画期間中に年少人口が265人、生産年齢人口が1,379人、老年人口が991人減少すると予測されています。



②児童数の推移

令和3年から令和7年までの推計児童数をみると、減少傾向にあります。

0歳から5歳の人口は令和3年には1,161人でしたが令和7年には1,104人に減少すると予測されます。

